

☆ねらい

場面を自由に設定し、6文以上の会話文を作ることができる。

☆扱う場面

- ・学年 3年
- ・make A Bの構文を学習した後の自己表現活動
- ・所要時間 3時間

☆指導の手順と留意事項

学習活動	指導の仕方・留意点等
① ヒントを参考に、自分の行動とその時の気持ちを表す英文を書く。(その1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現する make A B の使い方に慣れさせる。 ・どんな場面での表現になるのかも考えさせる。
② 例を参考に、自分の行動とその時の気持ちを表す1文とそれに関係する1文を書く。(その2)	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞 what を使った make A B の疑問文の用法を知らせる。 ・happy と angry に限定して、自分の立場の英文を2文作ることを知らせる。最初の1文は①で作った英文を使わせる。 ・対象の文だけでなく、その前後の文を考えさせ、話の流れを意識させる。
③ ペアで質問しあう。	<ul style="list-style-type: none"> ・②で作った英文を使って会話をさせる。 ・happy, angry 以外の形容詞を使った疑問文を使って互いに質問させる。①で作った英文1文で答えても良いし、②を参考にして2文で答えることにも挑戦させる。
④ 班で協力して、make A B を使ったスキットをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に班で、登場人物2人の気持ちや場面設定を考えさせる。 ・日本文を考えさせ、それを英文にさせる。その英文の中で登場人物の気持ちが表現できるように、make A B の構文を使うよう促す。 ・教師がスキットの英文を添削する。 <p>【本誌P53のワークシート参照】</p>
⑤ 班ごとにスキットを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の内容に対して感想などを言わせる。 ・発表を見るポイント、聞くポイントを確認させる。